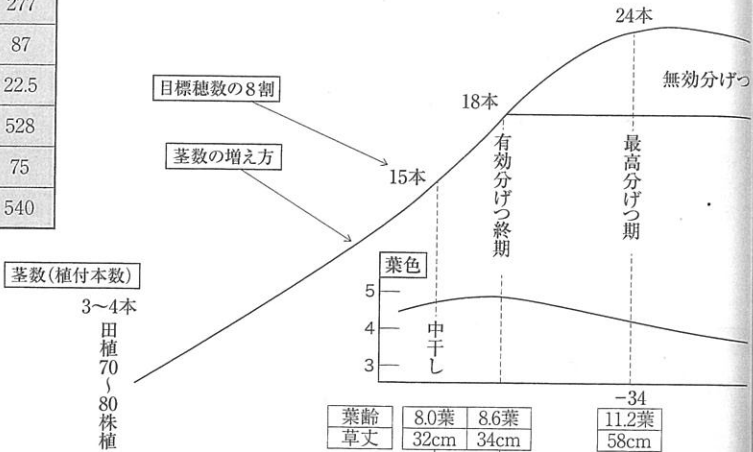


コシヒカリの栽培

ごよみ(JA米生産基準)

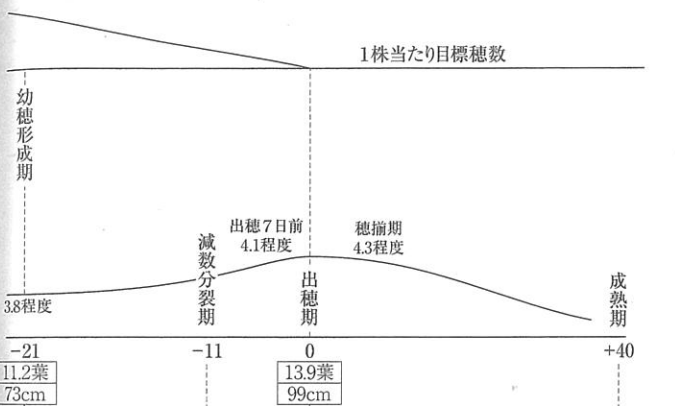
収量構成	目安
m ² 当たり株数(株)	22
1株当たり穂数(本)	18
m ² 当たり穂数(本)	396
平均1穂粒数(粒)	70
m ² 当たり初数(百粒)	277
登熟歩合(%)	87
玄米千粒重(g)	22.5
m ² 当たり最高茎数(本)	528
有効茎歩合(%)	75
10a当たり収量(kg)	540

	幼穂形成期 (幼穂2mm時)	1回目穂肥時期 (幼穂15mm時)
草丈	72cm	82cm
茎数	470本/m ²	430本/m ²
葉色	3.8	3.6



	目安
田植日	5月15日
やや深水管理	5月15日～5月19日
初期除草剤散布	5月15日～5月17日
体系は正剤散布 (初期剤使用の場合)	5月25日～5月29日
体系は正剤散布	5月15日～5月23日
浅水管理	5月20日～6月5日
軽い田干し (2日程度)	5月22日～5月24日
落水(軽い田干し)	6月6日
溝切り	6月8日～6月11日
中干し	6月12日～6月21日
間断かん水	6月22日～7月9日
飽水管理	7月10日～7月30日
湛水管理(出穂期)	7月31日～8月19日
間断かん水	8月20日～9月2日
落水	9月3日～

※中後期除草剤は残草の種類を見て随時散布する



月日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
生育期区分		育苗期	田植期	活着期	有効分げつ期	無効分げつ期	稲体組織充実期	
水管理		深水管理	浅水管理	溝切り、中干し	間断かん水	飽水管理	湛水管理	
栽培管理のポイント		<ul style="list-style-type: none"> ○田植にあわせた育苗計画を立て老化苗にしない。 ○種初は1箱当たり10粒を播き、苗箱は10当たり22枚、24枚を目安とする。 ○浸種初日は水温12℃を確保し芽出しを確実に行う。 ○浸種を徹底してよい苗をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3cmの浅植えとする。 ○1株の植付本数は3～4本とする。 ○倒伏防止のため、施肥量を厳守する。 ○荒天時の田植は避ける。 ○株数は坪当たり70～80株植えとする。茎数の取れにくい場合は80株植え(1kg/10a、50g/100g/箱)。 ○高密度播種苗の場合は使用量を遵守する。 ○苗箱施肥はブーンレバード箱粒剤を均一に散布する。(50g/箱) 	<ul style="list-style-type: none"> ○幼穂形成期以降は飽水管理を行う。 ○畦畔・農道の草刈りを徹底する。 ○中干し後の水管理は間断かん水を行い、干しすぎない。 ○溝の手直しを行う。 ○茎数が少ない場合は中干しを遅らせる。特に密苗は注意する。 ○中干しは溝切り後直ちに開始する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○溝切りは遅れず、6月上旬に行う。 ○高温により藻が発生したり田がワク場合には水の入れ替えを行う。 ○早期追肥は田植後7日以内に施す。(全生育) ○根の発育を促すため、2日程度の軽い田干しを行う。 ○促進させる。 ○活着後は湛水管理を行い、日中は止め水で田水温を高め、分げつを田植後4日間はやや深水管理を行い、活着を早める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本防除を徹底する。 ○いもち病・カメムシ類防除の徹底 ○稲体の活力維持 ○圃場の発生防止とカドミウムの吸収抑制のため、出穂から20日間の湛水管理を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○フーン時は事前に入水して、品質低下を防ぐ。 ○ただし、ほ場状況に応じて落水時期は調整する。 ○刈取予定日の5～7日前までは間断かん水を行う。 ○落水を急がない 	<ul style="list-style-type: none"> ○刈取適期表示を目安に刈取を行い、圃割れが発生しやすいので刈遅れないようにする。 ○稲の腐熟を促進するため秋耕を行い、必ず排水溝を掘る。 ○シリカロマンは10a当たり100kg以上施用する。 ○土壌診断に基づく土づくりの実施 ○雑草が多かった場合は刈取後に雑草に応じた除草剤を散布する。 ○稲の腐熟を促進するため秋耕を行い、必ず排水溝を掘る。 ○シリカロマンは10a当たり100kg以上施用する。 ○土壌診断に基づく土づくりの実施

月日	7月	8月	9月	10月
生育期区分	幼穂形成期	穂ばらみ期	登熟期	収穫期
水管理	飽水管理	湛水管理	間断かん水	土づくり
栽培管理のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○穂揃期は4.3程度の葉色を目標とする。 ○出穂7日前の葉色が4.0以下の場合には直ちに追肥を7kg/10a施用する。 ○1回目の穂肥は幼穂長15mm、葉色3.6で行う。 ○2回目は1週間後に行う。 ○穂肥は生育に応じて適正量を施用する(分施肥) 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本防除を徹底する。 ○いもち病・カメムシ類防除の徹底 ○稲体の活力維持 ○圃場の発生防止とカドミウムの吸収抑制のため、出穂から20日間の湛水管理を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○フーン時は事前に入水して、品質低下を防ぐ。 ○ただし、ほ場状況に応じて落水時期は調整する。 ○刈取予定日の5～7日前までは間断かん水を行う。 ○落水を急がない 	<ul style="list-style-type: none"> ○刈取適期表示を目安に刈取を行い、圃割れが発生しやすいので刈遅れないようにする。 ○稲の腐熟を促進するため秋耕を行い、必ず排水溝を掘る。 ○シリカロマンは10a当たり100kg以上施用する。 ○土壌診断に基づく土づくりの実施 ○雑草が多かった場合は刈取後に雑草に応じた除草剤を散布する。 ○稲の腐熟を促進するため秋耕を行い、必ず排水溝を掘る。 ○シリカロマンは10a当たり100kg以上施用する。 ○土壌診断に基づく土づくりの実施

稲作編